第2期

えりも町まち・ひと・しごと創生

総 合 戦 略

北海道 えりも町

目　次

第１章 基本的な考え方

１　目的と背景 ---------- １

２　国と北海道の総合戦略

⑴ 国の第２期総合戦略　２

⑵ 第２期北海道創生総合戦略 ---------- ３

３　えりも町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け

⑴ 総合計画との関係　６

⑵ 人口ビジョンとの関係

４　計画期間

５　施策の展開

第２章 基本目標と施策の体系

１　めざすべき姿 ---------- ９

２　４つの目標と施策体系 ---------- 10

第３章 具体的な施策

１　基本目標１

「まちに安定した雇用をつくる」　11

２　基本目標２

「まちに新たな人の流れをつくる」　14

３　基本目標３

「まちで安心して結婚・出産・子育ての希望をかなえる」　16

４　基本目標４

「安心・安全で、住み続けたい魅力的なまちをつくる」　18

第１章　基本的な考え方

１　目的と背景

国は、人口減少の克服と地方創成を合わせて行うことにより、将来にわたって活力ある日本社会の維持をめざして、平成２６年１１月「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、2060 年に人口１億人を維持することを目指す「長期ビジョン」と、それを踏まえた５か年の政策目標や施策の方向性をまとめた「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定しました。

「まち・ひと・しごと創生法」では、第 10 条において、市町村は、国の長期ビジョン及び総合戦略、北海道が策定した「北海道創生総合戦略」を勘案して、市町村における人口の現状と将来展望を提示する「地方人口ビジョン」及び地域の実情に応じた今後５年間の施策の方向を提示する「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略（地方版総合戦略）」を策定することとされており、えりも町においても平成 28（2016）年３月に「えりも町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

国では、令和元（2019）年６月に「まち・ひと・しごと創生基本方針 2019」、12 月に第２期「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定し、地方においても国と一体となって地方創成に取組む必要があることから、第２期「えりも町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するものです。

えりも町においては、第１期の戦略に基づき、人口減少対策に関わる施策や事業に取り組んできました。しかしながら、人口の自然減、社会減ともに歯止めがかからず、第１期人口ビジョンに掲げた推計を上回る人口減少が進む状況となっております。そのため、現行の総合戦略を検証したうえで、第２期の「えりも町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、今後のえりも町が目指すべき将来の方向を提示します。

２　国と北海道の総合戦略

（１）国の第２期総合戦略

国は、長期ビジョンを踏まえ、将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と、「東京圏への一極集中」の是正をともに目指すため、第１期「総合戦略」の成果と課題を踏まえて、第２期「総合戦略」では、横断的な目標の追加と基本目標の見直し①基本目標２:「地方とのつながりを築く」観点の追加、②基本目標１、４:「ひとが集う、魅力を育む」観点の追加を行い、以下の４つの基本目標と２つの横断的目標を定めました。

第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の目標	
基本目標①	稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする ・地域の特性に応じた、生産性が高く、稼ぐ地域の実現 ・安心して働ける環境の実現
基本目標②	地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる ・地方への移住、定着の推進 ・地方とのつながりの構築
基本目標③	結婚・出産・子育ての希望をかなえる ・結婚、出産、子育てしやすい環境の整備
基本目標④	ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる ・活力を生み、安心な生活を実現する環境の確保
横断的な目標①	多様な人材の活躍を推進する ・多様なひとびとの活躍による地方創成の推進 ・誰もが活躍する地域社会の推進
横断的な目標②	新しい時代の流れを力にする ・地域における Society 5.0 の推進 ・地方創成 SDGs の実現などの持続的なまちづくり

※国の第１期「総合戦略」における基本目標
基本目標１　地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする
基本目標２　地方への新しいひとの流れをつくる
基本目標３　若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
基本目標４　時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

（２）第２期北海道創生総合戦略

北海道人口ビジョンの「2040 年に４６０万人～４５０万人程度の人口規模を維持する」を踏まえ、第２期戦略の基本方針と重点戦略プロジェクト、基本戦略等を定め、今後５年の施策の基本方向を示しています。

《めざす姿》

幅広い世代が集い、つながり、 心豊かに暮らせる包容力のある北海道

《基本方針》

［１］基本認識の共有と全員参加　　［２］市町村戦略との一体推進

［３］札幌市との連携強化　　［４］民間との連携、協働

［５］分野横断的な政策展開・SDGs の推進　　［６］施策の重点化

《重点戦略プロジェクト》

基本戦略に掲げる施策のうち、北海道の人口減少対策の中核として、戦略の推進期間を通じて政策資源を集中投入する施策群として、重点的な展開を図る。

	プロジェクト名	狙い
1	「心豊かに・北海道暮らし」	人口減少社会に適応した行政サービス、生活インフラの確保、買い物環境の整備など、住民の「暮らし」の観点による地域づくりを進める
2	「磨き高め輝く・北海道価値」	北海道が世界に誇る価値、魅力である食や観光は、更なる創意と工夫で、一層の高みに押し上げる潜在能力を有している。これらの貴重な資源を磨き、しごとを創造し稼ぐ力を高める。
3	「未来をけん引・北海道人」	未来の北海道を創造する広い視野と挑戦への意欲、熱意を備える人づくり、人生 100 年時代を見据え、あらゆる立場・世代の人づくりを進める。
4	「北海道らしい関係人口の創出・拡大」	広域分散型の地域構造を有する北海道においては、北海道の暮らし、経済、人づくりの効果を高めることが期待できる北海道らしい関係人口の創出、拡大を進める。
5	「北海道 Society5.0」	情報発信技術等の未来技術は、課題先進地である北海道においてこそ、ピンチをチャンス変える力を持っている。北海道創生の次のステージに向け、「北海道 Society5.0」を見据えた取り組みを進める。

《基本戦略》

［1］	一人ひとりの希望がかない、誰もが活躍できる社会 ①安心して生み育てられる環境の整備 ②未来を担う子どもたちの成長を支える教育環境の充実 ③若者、女性、高齢者、障がい者など多様な人材の活躍
［2］	人口減少下においても、幸せに暮らし続けることのできる社会 ①将来を見据えたまちづくり ②健やかに暮らせる医療、福祉の充実 ③地域を支える持続的な交通ネットワークの構築 ④安全、安心で強靭な北海道づくり ⑤地域を支える情報通信基盤の整備
［3］	北海道の優位性、独自性を活かして経済、産業が活性化し、いきいきと働ける社会 ①魅力ある食の国内外への展開 ②農林水産業の持続的成長 ③さらなる高みを目指した観光戦略の推進 ④ものづくり産業をはじめ北海道の発展をリードする産業の振興 ⑤地域経済を支える中小、小規模企業の振興 ⑥道外・海外からの投資促進 ⑦地域をけん引する人づくり ⑧働き方改革の推進
［4］	北海道に住みたくなる、戻りたくなる魅力あふれた社会 ①移住、定住の促進 ②外国人材の受入拡大と共生 ③関係人口の創出・拡大 ④航空ネットワークや北海道新幹線等を利用した新たな人の流れの創出 ⑤スポーツによる地域の振興 ⑥北海道独自の歴史や文化の発信
［5］	地域創成を支える多様な連携 ①自治体間の広域的な連携の推進 ②多様な主体との連携体制の構築 ③人口減少対策に関する札幌市との連携強化

《地域戦略～日高地域》

［基本的方向］

農林水産業が地域を支える基幹産業である日高の特色を踏まえ、産品のブランド価値のさらなる向上や人材確保・育成などの対策を推進し、持続可能な産業振興を目指す。牧場風景、アポイ岳ジオパーク、日高山脈襟裳国定公園、アイヌ文化などの地域資源を活かした広域観光を展開するとともに、「ひだか」の魅力を総合的に発信し、地域の活性化を推進する。

［主 な 施 策］

●「ひだか」産品のブランド力向上と消費拡大

・肉用牛、コンブ、サケ、ウニ、マツカワなどの農林水産物の生産振興対策の推進

・「ひだか」産品の知名度向上と販路拡大

・強い馬づくりに向けた軽種馬生産の推進

●「ひだか」の産業を支える人材確保、育成

・一次産業をはじめとする各産業の担い手等の確保、育成

・教育機関と連携、協働した人材の育成

・移住、定住の促進に向けた住環境などの整備

●「ひだか」の魅力発信と観光の振興

・札幌、胆振、十勝圏域などとの広域観光の推進

・馬に加えて、豊かな自然や食など観光資源の開発、発掘

・国内外に向けた「ひだか」の魅力の発信

《重要業績評価指標（ＫＰＩ）》

新規就業者数（農業）	27 名　【H30】	⇒	25 名　【R7】
新規就業者数（漁業）	11 名　【H30】	⇒	14 名　【R7】
ウニの単価向上	9,600 円/Kg【H30】	⇒	12,500 円/Kg　【R7】
宿泊客延べ数	223 千人泊　【H30】	⇒	260 千人泊　【R7】

３　えりも町まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け

（１）総合計画との関係

第２期えりも町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、えりも町の町政運営の上で最上位の計画である第６次えりも町総合計画（平成 28 年度～37 年度）の理念や政策に沿った個別計画の一部として策定します。

（２）人口ビジョンとの関係

総合戦略の策定にあたっては、第２期えりも町人口ビジョンの現状と将来展望を踏まえ、中期的な目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめます。

４　計画期間

本総合戦略の計画期間は、令和２（2020）年度から令和７（2025）年度までの６年間とします。

５　施策の展開

（１）政策５原則

施策の展開にあたっては、国で見直しをした政策５原則を踏まえて各施策を推進します。

《政策５原則》

1.自立性	自治体、民間事業者、個人等の自立につながる施策に取り組む
2.将来性	施策が一過性の対処療法にとどまらず、将来に向かって、構造的な問題に積極的に取り組む
3.地域制	地域の強みや魅力を活かし、その地域の実態に合った施策を、自主的かつ主体的に取り組む
4.総合性	施策の効果をより高めるため、多様な主体との連携や、他の地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組む。その上で、限られた財源や時間の中で最大限の成果を上げるため、直接的に支援する施策に取り組む
5.結果重視	施策の結果を重視するため、明確なPDCAメカニズムの下に、客観的なデータに基づく現状分析や将来予測等により短期・中期の具体的な数値目標を設定した上で施策に取り組む。その後、政策効果を客観的な指標により評価し、必要な改善を行う

（２）重要業績評価指標（ＫＰＩ）を重視した目標設定

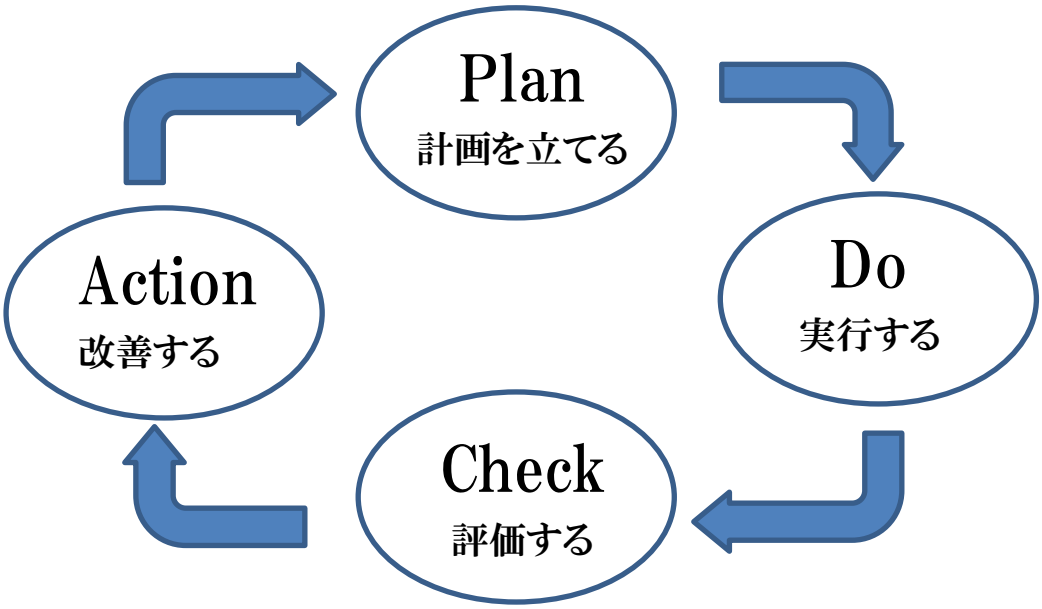
総合戦略に盛り込む具体的な施策については、客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定し、各施策の進捗度を把握、検証する必要があります。KPIは、原則として、当該施策のアウトカム（アウトプットを元にして獲得した成果・効果）に関する指標とします。なお、アウトカムに関する指標が設定できない場合には、取組の活動量を示すアウトプットに関する指標を設定します。

※KPI：Key Performance Indicatorの略称

（3）ＰＤＣＡサイクルの確立

まち・ひと・しごと創生を実現するためには、まず、効果的な総合戦略を策定し、着実に実施していくとともに、（2）で設定した数値目標等を基に、実施した施策、事業の効果を検証し、必要に応じて追加の対策や見直しなど総合戦略を改訂するという一連の仕組み（PDCAサイクル）を実行していくことが大切です。

※ＰＤＣＡ：Plan(計画)、Do（実施）、Check(評価)、Action（改善）の４つの視点をプロセスの中に取り込むことで、継続的な改善を推進するマネジメント手法。



（4）持続可能な開発目標（SDGs）と総合戦略との関連について

第2期総合戦略では、人口減少下においても、将来にわたり安心して暮らし続けることのできる地域社会づくりを進めることを取り組みの基本方向としており、持続可能な開発目標（SDGs）の理念と合致する施策を推進します。

持続可能な開発目標（SDGs）の１７の目標

1.貧困をなくそう　2.飢餓をゼロに　3.すべての人に健康と福祉を　4.質の高い教育をみんなに　5.ジェンダー平等を実現しよう　6.安全な水とトイレを世界中に　7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに　8.働きがいも経済成長も　9.産業と技術革新の基盤をつくろう　10.人や国の不平等をなくそう　11.住み続けられるまちづくりを　12.つくる責任つかう責任　13.気候変動に具体的な対策を　14.海の豊かさを守ろう　15.陸の豊かさも守ろう　16.平和と公正をすべての人に　17.パートナーシップで目標を達成しよう

第２章　目標と施策体系

１　めざすべき姿

えりも町は、江戸時代に松前藩の昆布場所として、日高管内でも早くに開かれた地であり、漁業を生業として先人が幾多の困難を克服しながら現在に至っています。

この間、森進一の曲のヒットにより襟裳岬を訪れる観光客の増加や港湾、漁港の整備等、インフラの充実と栽培漁業の推進が図られました。

太平洋に大きく突き出た襟裳岬は、風極の地と称されるほどの強風地帯ですが、厳しい自然環境ゆえに、人々が息を飲むような景勝が創り出され、岬の沖合には世界有数の漁場を擁し、えりも町は「漁業と観光のまち」として発展してきました。

一方、町内の人口は昭和 30 年の 9,267 人から減少し、昭和 50 年に微増となったものの、減少傾向に歯止めがかからず、平成 27 年には 4,906 人とピーク時から約半数となっています。

過疎化が進行する中にあって、本町の合計特殊出生率は、道内トップの水準にあります。この要因の一つとして「漁業を中心とした産業基盤の安定」が挙げられています。産業の安定は、豊かな海と大地の恵みによるもので、まちづくりにおける本町の誇れる優位性となっていました。

しかし、近年は、その漁業において、地球温暖化が進む中、海洋環境の変化も著しいことの影響か、秋サケ漁の不漁が続くなど予断を許さない状況となってきています。

今後、本町が持続可能なまちづくりを進めていくためには、人口減少への対策に取り組むとともに、海と大地がもたらす豊富な資源を維持・活用しながら、その営みを引き継ぐ人材を育てるとともに、新たに関係人口を増やしていきます。

このことから目指すべき姿を

「輝く海と大地を次世代へつなげるまちづくり」とし、次の４つの目標を設定し施策を展開します。

２　４つの目標と施策体系

本戦略は次の４つの基本目標を定め、各施策を実施します。

基本目標１	まちに安定した雇用をつくる

本町の豊かな海と大地の恵みを生かすことにより、町の基幹産業である漁業を中心とした各産業分野において、新たな担い手の確保と新規就業者支援を進めるとともに、生産性の向上と持続可能な資源の維持・増大対策を図ります。

さらに、地域ブランドの拡大や６次産業化の推進などによる高付加価値化に取り組みます。

基本目標２	まちに新たな人の流れをつくる

襟裳岬や豊似湖などの大自然、襟裳岬の緑化事業や猿留山道などの先人の歴史や文化、豊かな産業や地域の暮らし等を活かし、観光振興によるインバウンドも含めた交流人口の拡大に取り組みます。

今後、夏の冷涼な気候とともに自然・景観・食といった本町の魅力を発信することで、多くの人々の関心や興味を向けてもらうことにより、新たな「えりもファン」を全国に増やす関係人口の創出・拡大に取り組みます。

基本目標３	結婚・出産・子育ての希望をかなえる

本町に住む人が、結婚・出産・子育てに対して、より前向きに考えられるような環境の整備とそれぞれの希望をかなえることができるよう、ライフステージに合わせた切れ目のない支援の維持や充実を図ります。

また、社会で活きる力を育て、新しい時代に対応できる人を育む教育の実現に取り組み、「えりもの子はえりもで育てる」ことができる環境を整えます。

基本目標４	安心・安全で、住み続けたい魅力的なまちをつくる

すべての町民が、住み慣れた地域において、お互いに役割を持ち、ともに支え合いながら、安心・安全に暮らすことができるよう、町民の命を守る地域医療の確保や防災・減災対策を推進し、町民の参加と協働のまちづくりを推進し、町民が「ずっと住み続けたい、えりも町」をつくります。

基本目標１	まちに安定した雇用をつくる

（１）施策の基本的方向

- 基幹となる一次産業の生産性の向上と基盤整備を進めます。
- 各産業分野での新たな担い手の確保と新規就業者支援に取組みます。
- 持続可能な資源の維持、増大対策を図ります。
- 地域ブランドの拡大や６次産業化の推進による高付加価値化に取り組みます。
- 地元事業者の支援とともに、新規創業支援にも取り組みます。

（２）基本目標

○新規創業者数	H30 年度	０件	⇒	R7 年　３件
○就業人口	H27 年	2,800 人	⇒	R7 年　現状維持

（３）ＳＤＧｓとの関係

（4）施策

水産業の振興

本町の基幹産業である漁業は、地球温暖化が進む中、海洋環境の変化が著しいことから、予断を許さない状況となってきており、将来にわたる水産物の安定供給と漁業生産量を維持するため、漁業資源の管理を推進する。また、資源量が減少している魚種の種苗生産・放流を推進します。

後継者対策として、北海道漁業研修所に係る研修費を助成し、漁協など関係機関と連携し育成に努めます。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・コンブ漁場保全のための雑海藻駆除	115,000㎡	115,000㎡
・種苗生産、放流事業	ﾏｶﾞﾚｲ　15万尾 ﾊﾀﾊﾀ　300万尾 ｴｿﾞﾎﾞﾗ　3万粒	ﾏｶﾞﾚｲ　15万尾 ﾊﾀﾊﾀ　300万尾 ｴｿﾞﾎﾞﾗ　10万粒
・漁業従事者数	1,474人	1,400人
・漁業研修の参加者数	1人	3人

農業の振興

町有牧野の豊富な草資源を有効に活用し、肉牛・酪農農家の経営の安定化を推進します。

また、担い手や新規就農者の育成支援を推進します。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・新規就農者の確保	0人	2人

林業の振興

林業の持つ公益的機能を発揮させるための森林資源の適切な整備及び保全を図り、豊かな森づくりに取り組みます。

また、襟裳岬の緑化事業については、学校教育の中で植樹や枝払い等の体験や歴史を学ぶことにより、次の世代に引き継ぐ取り組みを行っていきます。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・植林面積	3,567ha	3,800ha
・人工林間伐面積	72ha	80ha

高付加価値化の取組

えりもの地域ブランドの拡大や６次産業化の推進による高付加価値化に取り組むとともに、新規創業の支援に取組みます。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・新規創業者数	０人	３人

新しい働く場の誘致

日本有数の強風地域である特性や町有未利用地を活用した風力発電設備の誘致等による新しい働く場を創造していきます。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・新しい働く場の創造	０件	１件

基本目標２	まちに新たな人の流れをつくる

（１）施策の基本的方向

- 自然、文化、歴史、産業、地域の暮らしを活かした観光振興に取り組みます。
- 日高山脈襟裳国定公園の国立公園化の機会に、インバウンドの拡大を図ります。
- 地域連携（市町村連携）により交流人口の拡大を図ります。
- 夏場の冷涼な気候と地域の資源を活かして、関係人口の創出・拡大を図ります。

（２）基本目標

○観光客宿泊数	H30 年度	13,300 人→	R7 年度	20,000 人
○外国人宿泊数	H30 年度	20 人→	R7 年度	300 人

（３）ＳＤＧｓとの関係

（4）施策

観光の振興

町内の観光資源である襟裳岬や豊似湖などの大自然、緑化事業や猿留山道などの先人の歴史や文化、豊かな産業や地域の暮らし等を活かした一体的な取り組みの推進や新たな観光資源の開発への取組を強化します。

また、日高山脈襟裳国定公園の国立公園化を機会に、ナショナルパークとしてインバウンド対応の取組みを計画的に実施し、外国人客の来訪増を目指します

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・観光宿泊者数	13,300 人	20,000 人
・外国人観光客宿泊数	20 人	300 人
・襟裳岬「風の館」入館者数	27,099 人	40,000 人
・コンブボートクルーズ利用者数	0 人	300 人

関係人口の創出・拡大

本町の夏の冷涼な気候と豊かな自然、新鮮な魚介を中心とした食といった魅力を発信することで、新たな関係人口の創出・拡大を図るとともに、移住・定住の受入れ環境の整備を検討していきます。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・お試し移住体験、ワーケーション利用	0人	50 人
・地域おこし協力隊	0人	2 人
・空き家情報登録制度の活用	3 件	5 件

ふるさと納税制度の活用

ふるさと納税制度を活用して、町の魅力や特産品である水産物等のＰＲによる「えりもファン」の拡大を進めます。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・企業版ふるさと納税	0 件	5 件
・個人版ふるさと納税	10,697 件	32,000 件

基本目標３	結婚・出産・子育ての希望をかなえる

（１）施策の基本的方向

- 町の将来を担う子どもを安心して生み育てることができるように、出産から子育てまで切れ目のない支援を行います。
- 結婚に向けた情報提供や出会いの場の設定など、婚活支援を行います。
- 学校と地域が連携し、「えりもの子はえりもで育てる」環境を整えます。

（２）基本目標

○合計特殊出生率　H25～29　1.75 人→　H30～R4　1.90 人

（３）ＳＤＧｓとの関係

（４）施策

子育て支援の充実

妊娠期に必要な妊婦健康診査等に係る費用を助成し、妊婦や胎児の疾病の早期発見、早期治療に努め、安全な妊娠や出産を支援します。

また、子育てに係る経済的・精神的負担を軽減し、安心して子育て期を過ごせるよう、子育て環境の充実に努めます。

具体的な施策	重要業績評価指数（ＫＰＩ）	
内　容　等	実績値	目標値
・妊産婦検診に対する費用の助成	受診率 100%	受診率 100%
・妊婦歯科健診に対する費用の助成	受診率　15%	受診率　30%
・育児相談の定期的な開催		
⑴育てにくさを感じた時に対処できる親の割合	63.6%	75%
・子供歯科健診、歯科指導等の実施		
⑴虫歯のない３歳児の割合	71.8%	80%
⑵12 歳児の１人当たりの虫歯本数	1.7 本	1.3 本

出会いの場の創出

結婚を希望する方の支援として、近隣町との連携も模索しながら独身者の交流を支援し出会いの機会を創出するとともに、その後に交際、婚姻へと発展するような事業を関係者とともに企画・実施します。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・婚活パーティー等出会いの場開催	０回	１回/年

地域と連携した教育の推進

本町の将来を担う子どもたちを地域総ぐるみで育んでいくため、「えりもの子はえりもで育てる」環境を整えます。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・えりも型地域学校推進委員会の設置	未設置	設置

基本目標４	安心・安全で、住み続けたい魅力的なまちをつくる

（１）施策の基本的方向

- 町民の健康増進と福祉の向上により安心・快適な生活環境を実現します。
- 町民の命を守る地域医療の確保と防災・減災対策の推進に取り組みます。
- 地域公共交通等の住民の足を守ります。
- 協働のまちづくりを推進します。特に若い世代が積極的にまちづくりに関わる仕組みづくりを進めます。
- 人口規模に即した施策の展開を進めます。
- 自治体の広域的な連携を進め、相互補完、役割分担による効率的な行政サービスや地域振興を進めます。

（２）基本目標

○社会減の縮小　　H30 年度　▲91 人　→　R7 年度　▲30 人

（３）ＳＤＧｓとの関係

（4）施策

誰もが健康で安心して暮らせる環境づくりの推進

地域包括ケアシステムの推進や見守り体制など地域福祉の充実、子どもから高齢者までそれぞれのライフステージに合わせた健康づくりの推進に取り組み、健康・福祉・介護と地域の連携によって、住み慣れた地域で自分らしく健康で安心して生活することができる環境を整備します。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
各種健(検)診に対する費用助成の継続		
（1）特定健康診査受診率の向上	35.4%	38%
・認知症カフェの開催	5 回/年	12 回/年
・認知症サポーター登録者数	219 人	300 人
・高齢者の見守りに係る協定締結事業所数	4 事業所	8 事業所

防災・減災対策の推進

今後、日本海溝・千島海溝沿いで発生が予測される巨大地震及び津波や近年増加している台風・集中豪雨等の災害に備えるため、防災計画の見直しや役場における業務継続計画の策定を進めるとともに、防災行政無線の設備更新や防災備蓄品の更新・充実など対策を進めます。また、自治会を単位とした自主防災組織の設立や地区防災計画の策定についても、積極的に支援していきます。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・自主防災組織数	1 組織	10組織
・地区防災計画策定数	0地区	3地区

地域公共交通の維持

地域の足である公共交通（JR 北海道バス及びタクシー）を維持するための利用促進を進めるとともに、将来に向けて、関係機関と連携して持続可能な地域公共交通の活性化や再生に取り組むために、関係機関とともに地域公共交通計画の作成を検討します。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・高速えりも号年間乗車人数(えりも町内)	4,547 人	5,000 人
・地域公共交通計画	未策定	策定

人口規模に即した施策の展開

減少している人口を抑制する施策を進めるとともに、町の財政状況も見極めながら、町有施設の計画的な更新や統廃合、長寿命化等の効率的な管理運営に努めるなど、町の人口規模に見合った効果的・効率的な施策を進めます。

また、他の自治体との広域連携による施策の推進に努めます。

内　容　等	実績値(H30)	目標値(R7)
・公共施設検討委員会の検討結果に基づく町有施設の統廃合の実施	０件	３件

第２期えりも町まち・ひと・しごと創生
総 合 戦 略

令和３年３月
令和７年３月変更

えりも町企画課振興係
〒058-0292　北海道幌泉郡えりも町字本町 206 番地
電話 01466-2-4612　FAX01466-2-4633
E-mail：erimo-kikaku@town.erimo.lg.jp
https://www.town.erimo.lg.jp/